農業共済事業特別会計
剰余金一千二百万余円

五十三年度の稲作は、六月中旬の異状高温、6・26水害による浸水や冠水、そして八月上旬の台風8号によるフェーン現象は、二七・四度という史上二番目の高温を記録、これらの悪条件が重なったにもかかわらず、被害面積四八四アール、該当者二十人、共済金額五十万余円の支出にとどまり、当年度剰余金は、一千二百五十八万八千百八十四円となり、これは法定積立金百五十万四千七百四十五円また、翌年度の災害に備え、特別積立金一千百三十五万四百三十九円として配分する予定です。

なお、損害防止事業として、一〇アール当り五百五十円、総額で六百九十九万三百八十円の薬剤費の一部補助を行い、病害虫の発生を最少限におさえることができました。

農業共済事業決算

収益的収入及び支出

【収　入】

区分	決算額			
	農作物共済勘定	家畜共済勘定	業務勘定	総合
共済事業収益	20,421,052円	0円	21,199,520円	41,620,572円
事業収益	20,421,052	0	19,086,097	39,507,449
事業外収益	0	0	2,113,423	2,113,423

【支　出】

区分	決算額			
	農作物共済勘定	家畜共済勘定	業務勘定	総合
共済事業費用	7,565,868円	0円	21,199,520円	28,765,388円
事業費用	7,565,868	0	21,195,701	28,761,569
事業外費用	0	0	3,819	3,819

浄水場
新施設に切り替え

九月二十日、町長はじめ工事関係者が参集して、浄水場のポンプ切り替え式が、コントロール室で行われ、町長と企業課長が交互にスイッチを入れると、配電盤の全機が作動、旧施設から新施設にポンプが渡されました。

これは、昨年度から始まった第二次浄水場拡張事業で行ってきた（電気、機械室、配水池、ろ過池）の完成及び全施設をコントロールする機器が導入されており、一目で全施設の状態が確認できる機能を備えています。

旧施設は、昭和三十三年上水道の給水を開始してから、すでに二十一年を経過し、年々増大する需用と老朽化が進み、安定した給水を図るに、旧施設では困難なことから、第二次拡張工事に踏み切り取水量も現在の一日一万一千立方㍍から二万立方㍍に増量し、今後の使用量の増加に十分対処できる施設を完備するものです。

この日は、これからの安全な給水を祈願するとともに、新施設の完成を祝い、参集した人達は拍手で今日の新たな一歩を喜びあっていました。

▲切り替えスイッチのボタンを押す町長。

柳作公民館改築へ
鉄筋コンクリート2階建に変身

▲工事の始まった柳作地区公民館

柳作の公民館分館が改築することになり、公民館施設としては、初の鉄筋コンクリート造り、二階建の名称も柳作地区公民館として生まれ変ります。

旧来の同分館は、昭和二十六年に建築されたもので、すでに三十年近くも経過し、老朽化が著しく地域住民から、早い時期に改築をと、強く要望されていたものです。

九月三日に着工し、すでに杭打ち工事を終了、二月末完成を目指し急ピッチで工事が進められており焼餅団地南側に、鉄筋コンクリート、総二階建、延面積三三六平方㍍、建築費三千五百万円を投入し大きく変身することになります。

これが完成すると、地区館七、分館十三となり、地域住民の集会の場、また社会教育の向上に一翼をになうものと期待されています。

消費生活

『貯蓄作文』最優秀賞に…
黒中1年斉藤則子さんが受賞!!

物を大切にする運動の一環として、夏休みの課題に「貯蓄の作文」を各小中学校に依頼したところ多数提出いただきました。審査の結果次の方が入賞し、入賞者には町長から賞状と記念品が贈られました。

最優秀賞	黒中1年	斉藤　則子	佳作入賞	黒中1年	青木　裕
優秀賞	山田小6年	松井　有里	〃	〃	佐野　裕子
佳作入賞	山田小6年	斉藤奈津子	〃	〃	田中　俊行
〃	黒中1年	近藤　えり	〃	〃	小山　直子
〃	〃	鈴木　園枝	〃	黒中3年	近藤　普
〃	〃	入江あや子			

物を大切にする心と貯蓄

黒中一年　斉藤則子

私はえんぴつ。私は今、校内のおとしもの箱の中にいるの。そう、私は、二、三日前までA子さんのふで箱の中に入れられて大切に使われていたの。そのころは今の私みたいにほこりだらけじゃなかった。だから、A子さんの友達も「ワーかわいい！」って見てくれたわ。でも、今はちがうご主人のA子さんだって、私だとわかっても知らんぷりするんですもの。でも、私はいい方なんだから。私の友達だったけしごむくんなんか、そうじの時、はきとられて焼きやくろに入れられちゃったんだから。でも、私だって、きっと焼きやくろに入れられちゃうんだろうな。私と同じ箱にいるぞうきんや、ものさしさんも元気がなくなっちゃって。そう、ご主人のところへ帰りたいのね。私だっておんなじよ。私達、ご主人のところへもどって、大切に使われたいんだもの――

みなさん、えんぴつさんのお話、聞こえた?、このお話、この前、えんぴつさんが私に話してくれたものです。その時、えんぴつさん、すごく悲しそうでした。私、その時思ったんです。こんな小さなえんぴつにも心があるんだなっ……て。どんなものにも生命があるんだなっ……て。そして、今までの自分の行いを反省したんです。

そして……、物を大切にする心ってなんだろう?と思ったんです。ケチということもなんだろう?って思ったんです。物を大切にする心とケチって似ているようだけど全然ちがうと思ったんです。

物を大切にするということは、一つ一つの物を尊重し、大事にすることで、ケチというのは必要な物をだしおしみすることです。

そんなこと、だれでもわかってるさ!!って言われそうだけど、これをはきちがえている人が世の中には、いすぎるほどいるような気がしてなりません。

〝物を大切にする〟と貯蓄もつながりますし〝ケチ〟と貯蓄もつながります。でもそれでためた二つのお金は価ちが全然ちがいます。

そして、今の私達に必要なのは……

「物を大切にする心と貯蓄」なのです。今の私達には物が豊富にありすぎるためか、一つ一つの物の心を考えて見てはくれませんし。

そして、今は省エネルギー時代、もっと、もっと、たくさんの人々がこのことに気付いてくれてもよいのではないかと思うのです。

さっきのえんぴつさんだって、もっとたくさんの人々に自分のお話を聞いてもらいたかったにちがいありません。

みなさんも、一つ一つの物のお話に耳をかたむけてみませんか。きっとあたらしい何かをみつけることができると思います。大切なことをみつけることが、できると思います。